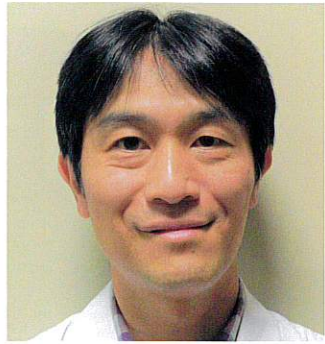


オンライン・セカンドオピニオン外来



脳神経外科診療部長
岩崎 真樹

NCNP病院では8月よりオンライン・セカンドオピニオン外来をはじめました。脳神経外科によるてんかん・てんかん外科、脳深部刺激療法(DBS)を対象に開始し、現在は脳神経内科、小児神経科、てんかんセンター、認知症センターでも受け付けております。

オンライン・セカンドオピニオンでは、予めお送りいただいた診療情報提供書や検査結果をもとに患者さんとビデオ通話しながら、診療方針の意思決定をお手伝いします。ご自宅など都合の良い場所で受けられますので、遠方にお住まいの患者さんや、新型コロナウイルス感染症対策で外出を控えている方には便利なサービスです。設備の都合で通常のセカンドオピニオン外来よりもやや料金が高くなっておりますが、患者さんにご家族が往復される交通費を考慮すると、お住まいの場所によってはかなりリーズナブルです。診断や治療方針の決定に迷われていて、ご希望される患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご案内ください。



オンライン・セカンドオピニオンの様子。
手前のラップトップで患者さんとビデオ通話します。



<https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/second.online.html>
HP から申込書をダウンロードしていただけます。

NCNP
病院
診療科紹介

脳神経内科診療部



ありふれた症状から始まる 脳神経内科の臨床



特命副院長・脳神経内科診療部長
高橋 祐二

脳神経内科が対象としている症状は、動きにくさ、歩きにくさ、筋力低下、ふらつき、ふるえ、しびれ、めまい、頭痛、物忘れなど多岐にわたります。ありふれた症状であっても、結果的に脳神経内科疾患の初期症状であったと後に判明することは珍しくありません。以前は治らない疾患のイメージがあった脳神経内科疾患も、近年様々な治療法が開発され、患者さんの生活の質や予後の改善に貢献できるようになってきました。従って、できるだけ早期に、正確に診断し、的確な治療を開始することが、非常に重要です。

当院脳神経内科は、総勢16名のスタッフが所属し、パーキンソン病、アルツハイマー病、多発性硬化症、筋疾患、てんかん、片頭痛と、幅広い脳神経内科疾患を対象に、最先端の診断・治療を提供しています。各スタッフが診療ガイドライン策定に携わり、本邦の医療をリードする役割を担っています。専門分野も、遺伝、生理、病理、心理、嚥下など、脳神経内科の領域を広くカバーしています。

是非当院の脳神経内科を積極的にご活用いただき、一人でも多くの患者さんに、当院の専門性をお役立ていただけますよう、心よりお願い申し上げます。

